

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

※無回答は数値に含んでいない為回答数は一致しません

公表：令和 2年 12 月 22 日

事業所名 大野市社会福祉協議会放課後等デイサービス事業所

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	3	1	利用人数によって、ついなどで活動スペースを確保している。	・定員に対しての基準は適切だが、幅広い年齢を考えると、スペースは十分とは言えない。 ・特性に合わせたスペースの確保も配慮が必要である。
	2	職員の配置数は適切である	3	2		児童10人に対して2人以上という人員配置基準以上の配置を行い、保育士、社会福祉士、教員等、児童分野の経験と専門性を備えたスタッフを配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6				・児童の成長に伴い、トイレ等配慮が必要となっている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3				
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3			アンケートを行い、保護者の意向の把握や意見をもとに改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3				・社会福祉協議会のホームページにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1		1		・外部評価は行っておらず、利用者と職員の評価となっている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	1			・外部研修に参加したり、講師を迎えて行っている（本年はコロナウイルス感染症の影響で行っていない）
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	1		ミーティング等で、利用時の様子を話し、支援の仕方や活動について共通認識を持って取り組むようになっている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	1	2	1	季節に合わせた活動や曜日、グループに合わせた活動を状況を見ながら行っている。	・努力したい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1			・細やかには設定できていない。 ・今後も新しい企画設定を掲げたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			職員ミーティングを行い、児童の様子や、支援の流れ、支援方法を確認している	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3		振り返りを行い次の支援につなげている	・時間があれば話をする日もある
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	4				
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1		児童発達支援管理責任者等の適任者が出席している。	・児童により配慮した会議の持ち方を検討したい。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	3	1		送迎時に情報を得たり、適宜学校から連絡をもらっている。長期休暇時は、担任が見学に来られたり電話で様子を聞かれたりと、情報共有できている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2		基本情報には主治医の記載がされている。	・医療的ケアが必要な子どもの受入をしていないが、受け入れる場合は、必要な体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3			就学前にケア会議、モニタリング等に参加し、情報を共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2			移行支援の会議にて情報を提供している。	・必要があれば情報提供をすることができる。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			1		・すすんで受けていきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			4		・地域交流が難しい状況である。 ・難しい課題もあるが、機会があれば交流できると良い。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1			奥越地区の自立支援協議会の部会にできる限り出席するようにしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			お迎えの時に直接様子を話すことで情報を共有している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	1		ペアレントトレーニングという具体的なプログラムは行っていないが、お迎え時に一緒に考えたり話を聞いて相談にのっている。	・保護者の立場に立って、悩みや意見を聞くように努力している。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	1				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2			・専門的な助言ができるように、相談の一つ一つを受け止めていきたい。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	1	1	保護者や児童の活動に関するチラシなどを窓口を設置するなど、活動を広く知ってもらうための支援を行っている。	・年に1回は開催したい。(本年は新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため見合わせている)	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5					・苦情があった場合、苦情受付・解決担当者につなげて適切に対応するように努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			行事の後に通信にて様子を伝えるようにしている。		
	35	個人情報に十分注意している	6			個人情報同意書に同意をいただいている。		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			わかりやすい伝達方法を保護者や利用児に合わせるようにしている。		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			4			地域性の課題も含めて考えていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4					作成し、通信にてお知らせしたが設置場所については分かりにくかったようで、わかりやすい場所に設置しなおし、再度周知を図りたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6					
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1		講師を招き、内部研修を行っている。		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	1				・対象となる児童が現在はいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		1	有無については事前に確認している。		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		1			